

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100565		
法人名	有限会社 すずらん		
事業所名(ユニット名)	楠見グループホームすずらんA		
所在地	和歌山県和歌山市楠見中26-1		
自己評価作成日	平成30年9月10日	評価結果市町村受理日	平成31年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&lijgyosyoCd=3090100565-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2
訪問調査日	平成30年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「真心介護」の理念に基づき、自分自身が受けたいと思えるケアが行われ、家族・友人・知人がいつでも来て頂けるようなグループホームを目指しています。日々の生活の中で1人1人のニーズに応じたサービスの提供ができるよう、各入居者様のカンファレンスを定期的に行い利用者様によりそう介護を実践します。また、月一回内部研修を行い、外部研修にも積極的に参加し、職員のスキルアップを目指した取り組みを行っていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は入居者と共に、近所づきあいや地域の活動、運営推進会議などを通して地域住民との交流を深めている。管理者・職員は入居者に寄り添った「真心介護」を実践しており、入居者の日々の暮らしの支援では、一人ひとりのペースを大切にニーズに合わせた支援を心がけ、どの職員が対応しても同じ質のサービスが提供できるよう努めている。入居者と職員は、1階の中庭に行きおしゃべりをしながら外気浴や気分転換を楽しんだり、時には共用部分であるリビングを一緒に掃除して労をねぎらい合うなど、暮らしを共にする者同士としての関係を築いている。又、入居者の健康管理については、常勤の看護師と、週2回の往診や夜間・緊急時の対応も可能な協力医の連携体制が整っており、入居者・家族の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果		項目		取り組みの成果	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「真心介護」を常に意識できるように掲示している。その意識の共有ができるよう、職場環境を管理者と職員でつくり、実践に繋げている。	理念に基づいたサービスを提供できているか、管理者・職員は日々のミーティングや月例会議で話し合い、理念の共有と意識づけに努め、入居者一人ひとりに寄り添った「真心介護」を実践している。	
2	(2) 3	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には事業所として加入し、会合等にも参加している。地域の方々とは運営推進会議や慰問・盆踊りなどの行事をとおし交流を深めている。	自治会への加入や、運営推進会議への地域住民の参加は地域との情報交換につながっている。又、地域の防災訓練や催しに入居者や職員が参加したり、事業所の夏祭りを地域住民にも楽しんでもらったりと、事業所は地域の一員として地域と交流し、入居者と地域のつながりを支援している。	
		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者・職員は実践により培った認知症の方の理解や支援の方法を活かし、地域の方々との交流時や家族様からの相談・助言等を積極的にやっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議で頂戴した意見・情報を活かし、サービスの質の向上に努め、地域の一員として貢献できるように取り組んでいる。	2ヶ月毎に入居者、家族、民生委員、包括支援センター職員等に参加してもらい、会議の前半は建物内の他事業所と合同で、後半は事業所単独で開催している。入居者の近況や事業所の活動状況の報告に対し、参加者から評価や助言を得てサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	更新手続きや生活支援課の訪問等の事務的な関わりが主となっているが、何かあれば訪問、電話等で相談するようにしている。	市の担当課には機会ある毎に相談や問い合わせをしている。地域包括支援センターには運営推進会議に参加してもらい、情報の共有と連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修等で「身体拘束」について学び、どういった状況が拘束にあたるのか周知し、統一したケアを職員一同取り組んでいる。	職員は内部研修や外部研修の受講により、全員、身体拘束の内容と弊害を正しく理解し、身体拘束しないケアに取り組んでいる。玄関は手動開閉でチャイムを設置しているが施錠せず、エレベーターの乗降も制約がない。見守りによる安全確保をしつつ、抑圧感のない暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修等で「高齢者の虐待」について学び知識を深めることにより、虐待の見逃しがないように注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用する入居者様がいる事もあり、外部の研修に参加した職員が内部研修を行い全ての職員が知識を深め対応できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の内容を入居者様・家族様に出来るだけわかりやすく説明し不安・疑問等の軽減に努めている。また、改定時には案内及び電話、来所時等に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の入居者様の意見や要望への対応について運営推進会議で推進委員の皆様へ伝え、会議や来所時にいただいた意見を昼礼や月例会議等で各職員へ伝え業務の改善に努めている。	重要事項説明書に相談・苦情窓口を明記しており、いつでも意見を言い表せることを、契約時に説明している。運営推進会議開催の案内を送って参加を呼びかけたり、面会などで訪れた際も必ず声をかけ、発言の機会を作るよう心がけている。出された意見は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例会議・管理者会議を行い事業所会議で職員の意見や要望を管理者会議で伝え、代表や会社の方針を月例会議で職員に伝える様にしている。	職員の提案や要望は、月例会議での話し合い以外にも、直接管理者に申し出ることや、個人面談で話すこともある。代表者や管理者は、常に職員との意思疎通を図り、現場の職員ならではの気づきに耳を傾け、出された意見は討議の上運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを導入しており、各々の職員の能力や資格保持状況等をふまえた給与体制となっている。また、管理者会議等では職場環境の整備等についても話し合う場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が講師となり内部研修(勉強会)を実施したり、新人職員にも丁寧な指導をし、個々の職員のスキルアップを図っている。又、外部研修にも多くの職員が参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所主催の勉強会に参加したり、代表者同士の勉強会に参加させてもらうことでネットワークづくりに取り組んでいる。又、他事業所へ見学に行くことで自施設の改善に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様に要望、困っていること、不安なことなどを聞き、グループホームの説明を行い、いつでも安心して生活ができるよう傾聴の姿勢を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	疑問や要望、困っていること、不安なことを伺い、事業所として出来る事出来ない事、協力してもらいたい事等を明確にし、安心して頂けるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族様がどのようなことで困っているかの聞き取りを行い他のサービスも含めて、どのような支援が必要かを見極め対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事やレクリエーション、コミュニケーションを通し、一緒に生活をしているという意識を持ち、入居者様と職員が共に喜べるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が家族様の来所時に入居者様の状態をお伝えし、入居者様の状態に合わせた介護方法を家族様と共に考え支援に繋げられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が築いてきた人間関係を大切に、面会しやすい環境をつくり、面会して下さった方にはまた来て頂ける様声かけしている。	行きつけの店や場所、馴染みの医院、墓参りなど、これまでの関係が途切れないよう、家族の協力を得ながら支援している。家族や馴染みの人が訪れた際は笑顔と挨拶で迎え、歓迎の意を表し、訪れやすい雰囲気作りを心がけている。居室の畳敷きスペースで、入居者が来訪者と会話や食事を楽しめるよう支援することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を日頃から観察し座席等を決めている。又、他者との交流が難しい方には職員が間に入り入居者様同士の交流が図れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も困りごとがあればいつでも連絡いただけるよう退去時にお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が一人一人の入居者様に寄り添い日々の暮らしの中での希望・要望・困りごと等の把握に努めている。緊急的な事はその日の昼礼等で、その他の事は会議やカンファレンス等で検討している。	入居者の日々の様子や会話などからの気づきは、昼礼ノートや個別記録に残し、職員間で意見を出し合っって思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な入居者の場合は、行動や表情から汲み取り、本人の視点に立って検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入までに、今までの暮らし方や生活環境等を本人や家族様にアセスメントを行い、またセンター方式のシート記入をお願いし情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子やバイタル測定、食事摂取量、水分摂取量、服薬状況、排泄記録等の記録を行い心身状態の把握に努めている。又、勤務交替時の申し送りや昼礼等でも現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヵ月毎のカンファレンスを計画作成予定月になるよう実施しており、担当職員、本人様、家族様の意見を反映した計画を立てるようにしている。	日々のモニタリング記録を元に、本人の思いや意向が反映できるよう、カンファレンスでは家族から得た意見も含めて職員が意見やアイデアを出し合い、現状に即して見直し、計画を作成している。必要に応じて医師や看護師ら関係者の意見も求めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の様子を記録する事で、職員全員が共有し現場で活かせるよう努めている。また、状態の変化が見られた場合にはカンファレンス等をしその都度見直しを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様・家族様の状況を知る為、日々のコミュニケーションを大切に、各々の入居者様のニーズに対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(防災訓練・盆踊り)に参加させていただいたり、近隣の方には畑作りの知恵を頂くなど、地域資源を活用しながら楽しく張りのある生活がおくれるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に定期的な受診、緊急時の受診先をうかがう事はもちろん、かかりつけ医と自施設の看護師と連携をとり適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医の選択は入居者・家族の希望を尊重しているが、現在は全員、協力医をかかりつけ医とし、2週間毎の往診、緊急時や夜間対応の協力も得ている。通院は家族と協力し支援しているが、受診の前には家族と情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師と連携し、入居者様の日常の変化を都度報告し適切な処置や病院受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院に至るまでの経過や施設での状態等の情報提供を行っている。退院時にはカンファレンスに施設看護師同行で参加し退院後安心して過ごして頂ける様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や終末期の対応についての説明を行い、入居者様・家族様の意向をうかがうようにしている。詳しい対応については入居者様の体調の変化に応じて家族様、かかりつけ医、看護師と連携をとり対応させていただき旨をお伝えしている。	契約時に予め重度化や終末期の対応についての説明を行い、入居者・家族の意向を確認している。実際に重度化した場合は、その都度意向を確認し医師や看護師と連携を図っている。今後の看取り介護の増加を想定して、職員は内部・外部研修を受講するなど、積極的に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修、内部研修や勉強会にて定期的に学び急変時や事故発生時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練(日勤想定・夜間想定)を行い対応できるようにしている。又、地域の防災訓練に参加し地域との協力体制を築いている。	昼・夜を想定した避難訓練を年2回、入居者も参加して実施している。夜間の停電にも備え、飲料水や食料品以外にもランタンなどの物品も準備している。地域防災訓練には入居者職員共に参加し、実践的な協力体制が得られるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を大切にし、各々の入居者様に合わせた対応を行うよう努めている。またカンファレンスや会議などで尊厳やプライバシーを損なうケアを行っていないか振り返るようにしている。	呼称は姓に「さん」付けとし、居室入室時は必ずノックと声掛けをする。排泄介助時には羞恥心に配慮するなど、入居者の人格を尊重し、自尊心やプライバシーを損ねない支援に努めている。個人情報、パソコンも含め取り扱いに注意し、書類は施錠できる場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の言葉による希望や要望だけでなく、言葉に表せない表情等にも気づけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の支援から得られた入居者様の情報や意見、要望等をできる限り沿えるよう職員間で話し合い支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型、好みの服など、各々の入居者様の希望に沿えるよう声掛け等行い支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の希望に沿って、食事作り、準備、片付けを行っているが機会が減ってきており、もっと利用者様と職員と一緒にできる工夫をし機会を増やしていきたい。	食事は業者委託であるが、入居者の嗜好や体調に合わせてメニューや形態を適宜変更している。入居者は自分の出来る範囲ではあるが、食器拭きや下膳を行っている。時には、職員も食卓を囲み同じ料理を味わったり、入居者と職員一緒におやつ作りをしたり、誕生日やレクリエーションの機会に外出に出かけるなど変化を持たせ、食事を楽しむ支援を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状態を日々観察・記録し、その方に合わせた食事形態での提供を心掛けている。また必要に応じて本人様、家族様にも相談し希望する食べ物を購入、持ってきて頂いたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様に合わせ、毎食後に口腔ケアの介助を行っている。義歯を使用している方は週1回以上の義歯消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間の把握が出来るように記録を行っており、出来るだけ自立した排泄を継続できるよう支援している。	排泄を記録しパターンを把握するとともに、その時々の様子を見守り確認することで、夜間も含めトイレ誘導を行い、できるだけ自立した排泄が継続できるよう、一人ひとりに合わせた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服薬だけに頼らず、食事の献立や水分摂取量等にも気をつけている。又、運動等のレクリエーションを取り入れ便秘解消に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2ユニットに対し、浴室が1つしかない為、基本の入浴日は設定しているが、入浴時間を午前と午後に分けており希望があれば都度対応できるようにしている。	週2~3回の入浴が多く、各自の脱衣カゴにシャンプーや入浴グッズを保管するなど、入居者一人ひとりの希望に添った入浴を支援している。身体機能に合わせて同建物内の機械浴の使用も可能である。又、中庭に足湯の設備があり、こちらも入居者のくつろぎの場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間だけでなく日中も自由に自室にて休んで頂いており、自室で快適に安眠・休息できるよう環境や空調にも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局や看護師の指導にて薬の目的や副作用、用法、用量についての把握に努め、服薬に関しては利用者様の身体状況に合わせて介助を行っており、服薬後の状態の変化にも気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴を知り、各々の入居者様に合った役割や楽しみを見つけられるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物などは各々の入居者様の状況に応じて出来る範囲で対応している。又、行きたい場所等日常の会話の中で聞き出し希望に沿えるよう家族様にも協力して頂いている。	ちょっとした買い物や散歩など、一人ひとりのその日の希望に添った外出支援に努めている。レクリエーション活動の一環として、花見やドライブなどに出かけたり、家族の協力を得て外出することもある。外出が困難な場合は、1階にある中庭での外気浴や足浴を支援し、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の状態に応じて家族様に相談し了解を得た場合は入居者様に少額のお金を所持頂いている。又、買い物に行った際には支払等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人への電話はもちろん、家族様へ電話したい場合等も家族様の了承を得たうえで電話できるよう支援している。手紙やはがきに関しても意思を尊重し家族様と協力して支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔であるよう心掛け、快適に過ごして頂ける様空調にも気をつけている。又、各月に合わせた壁面を飾り季節を感じて頂けるようにしている。	共用空間は落ち着いた色調で統一し、採光、室温、通風なども快適で、どこも掃除が行き届き清潔感がある。丸テーブルと肘掛け椅子を配置したりリビングや、その前にある畳敷きの和室で、入居者は思い思いにくつろぐことが出来る。又、入居者と職員合作の貼絵などを月替わりで飾り、季節感を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の人間関係を職員が把握し、座席など交友関係が築きやすい様に声掛けをしている。又、共有空間の畳スペース、ソファなども活用してもらい、思い思いの過ごし方をして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には入居者様の馴染みのものを置いて頂けるように入居時にお願いしている。又、入居後にご自身が作成したものや写真、お誕生日の色紙などを飾るようにしている。	居室には畳敷のスペースがあって、入居者はそこで親しい来訪者とお茶と楽しんだり、じっくり腰を下ろしてくつろぐなど憩いの場として活用している。部屋には使い慣れた家具を配置し、テーブルやベッドの前に思い出の品を飾るなど、その人らしく居心地よく暮らせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は安全かつ、出来るだけ自立した生活が送れるよう各所に手すりを設置し、歩行の妨げとなるようなものを通路に置かないようにしている。		